

Course number	U-LAS70 10001 SJ50				
Course title (and course title in English)	ILASセミナー : 教育・社会・国家 ILAS Seminar : Education, Society and Nation-State	Instructor's name, job title, and department of affiliation	Graduate School of Human and Environmental Studies Professor, KURAISHI ICHIROU		
Group	Seminars in Liberal Arts and Sciences	Number of credits	2	Number of weekly time blocks	1
Class style	seminar (Face-to-face course)	Year/semesters	2024・First semester	Quota (Freshman)	10 (10)
Target year	Mainly 1st year students	Eligible students	For all majors	Days and periods	Wed.5
Classroom	535, Graduate School of Human and Environmental Studies			Language of instruction	Japanese
Keyword	映画 / 表象 / 教師生徒関係 / 学校制度の比較史				

(Students of Faculty of Integrated Human Studies cannot take this course as liberal arts and general education course. Please register the course with your department.)

[Overview and purpose of the course]

古今東西の映画のなかで、教育を主題にしたものや教育の世界（教師や生徒や学校の日常の人間関係）が濃密に描かれた作品をいくつか取り上げ、そこに描かれた像を考察することを通して、教育が歴史・社会的文脈においてしか成立しえない事象であることを理解し、また教育学に包含される問題群がいかにか幅広く、多様なものであるかを理解することを目指す。取り上げる作品は日本だけのものに偏らず、アメリカやヨーロッパのものを多く含むことで比較社会・比較教育的な試みを可能にする。

[Course objectives]

教育が歴史・社会的文脈においてしか成立しえない事象であることを理解し、教育学に包含される問題群がいかにか幅広く、多様なものであるかを感得することで、教育学を学ぶモチベーションを高める。

[Course schedule and contents]

1. オリエンテーション

2. ~ 14. 個人発表またはグループ発表：教育をテーマとする映画作品および原作（または関連文献）を各受講者が取り上げ、読みとった教育像を報告し全体で共有化の上、討論を通じて考察を深める。

< 取り上げる作品例 >

- ・ 山田洋次監督 『学校』 『学校II』 1993、1996 日本
- ・ 吉田大八監督 『桐島、部活やめるってよ』 2012、日本
- ・ ピーター・ウィア監督 『いまを生きる』 1989、米国
- ・ チャン・イーモウ監督 『あの子を探して』 1999 中国
- ・ ガス・ヴァン・サント監督 『グッド・ウィル・ハンティング』 1997 アメリカ
- ・ ジョー・ジョンストン監督 『遠い空の向こうに』 1999 アメリカ
- ・ ジェイソン・ライトマン監督 『ジュノ = JUNO』 2008 アメリカ
- ・ マーク・ウェブ監督 『Gifted = ギフテッド』 2017 アメリカ
- ・ スティーブン・チョボスキー監督 『ワンダー 君は太陽』 2017 アメリカ
- ・ ガーウィグ監督 『レディ・バード』 2017 アメリカ

Continue to ILASセミナー : 教育・社会・国家(2)

ILASセミナー : 教育・社会・国家(2)

- ・フランソワ・ベゴドー監督『パリ20区、僕たちのクラス』2008 フランス
 - ・アリアヌヌ・アスカリッド監督『奇跡の教室 受け継ぐ者たちへ』2014 フランス
 - ・フランソワ・トリュフォー監督『大人は判ってくれない』1959 フランス
 - ・サム・ウッド監督『チップス先生さようなら』1939 イギリス
 - ・ジョン・カーニー監督『シング・ストリート 未来へのうた』2016 アイルランド
- 15 . フィードバック

[Course requirements]

None

[Evaluation methods and policy]

平常点評価による。

教育現象の歴史・社会的文脈での把握・理解が達成されたかどうかを観点に、セミナーにおける発表時のレジユメの完成度、説明の適切性、作品選択の理由説明などを評価する(70%)。さらにそこに日常の討論・共同作業への参加状態、貢献などを加味する(30%)。

[Textbooks]

Not used

[References, etc.]

(References, etc.)

Introduced during class

[Study outside of class (preparation and review)]

グループ発表においては、他のメンバーと密に連絡を取り、協調して発表準備を行うこと。
他の人が発表で取り上げる作品もなるべく、吉田南図書館1F視聴覚室または附属図書館3Fラーニング・コモンズで視聴しておくことが望ましい。

[Other information (office hours, etc.)]